

白木蓮

伊藤道子歌集



伊藤道子 (いとう・みちこ)

〒657-0032

神戸市灘区中郷町4-1-21



歌集 白木蓮(はくもくれん)

長風叢書第二二八篇

発行 平成十二年六月二十日

著作者 伊藤道子

発行者 角川歴彦

発行所 株式会社角川書店

〒一〇二一八一七七

東京都千代田区富士見二一十三一三

電話 (〇三) 三八一七一八五八一

印刷所 株式会社熊谷印刷

製本所 株式会社鈴木製本所

装幀 伊藤鑽治

©Michiko Ito 2000 Printed in Japan

ISBN4-04-871856-8 C0092

歌集・白木蓮・目次

迷路	55
新参者	46
建てし本音	39
軌道曳きゆく	30
追憶のかけら	20
早春賦	13
脱出	7

あるいは星座	151
群れおりて	141
港	130
おりたちし曠野	121
かがやく湖畔	114
レフの焦点	103
風の十字路	89
花吹雪	83
白木蓮	76
私は私	61

地につくばいて
|
163

過去は過去
|
171

人を許さん
|
180

あとがき
|
190

歌集
白木蓮

脱
出

脱出のわがためガラス割りくれし未明の影の誰かは知らず

歪みては動かぬ扉　炎の窓　命ひとつを残してほしい

地の揺るる時に纏いしセーターにガラスの破片きららなすなり

纏うもの皆もち去りし火の跡に生まれし我の如く立ちおり

ポケットも十円硬貨も無き身にて家焼け墜つを見届けて立つ

髪束ぬる五糎ほどの紐欲しき瓦礫　人群れ　ひとりの女

燃えやまぬ街よぎりゆく夜の道におむすびをくれし少年のあり

震災の街ひた歩く人ら皆ペットボトルに水かがやかせ

地震^{ない}去りし瓦礫の巷にすれちがうなぜか互みにあたたかき貌

ちりちりと蔦を焼きたる塀の果てわが姓あらわに門標残る

われの名を呼びて探しし子の一夜いづくに野宿せしかは問わず

早春賦

くずおれし街のがれ来て新芽吹く春を歩めり明日香 山の辺

被災せし者に届きてふと匂う石鹼の香はわが家と同じ

バス待てば桜並木に現わるる越し来し町の春もまた好き